

東日本大震災を踏まえた 今後の文化財振興の方針について

無所属 大平 洋人 議員

問 東日本大震災は多くの被害をもたらしたが、文化財もまた同様であったと思う。

答 文化財は先人が今までの世代に守り伝えてきた貴重な財産であり、本市の歴史や文化の理解に欠かせないものである。また、郷土への愛着を育み、将来へ向けて本市の歴史を伝承する基礎になるものである。

震災を踏まえて、文化財の保護や新規の指定等、今後の文化財振興の方針を伺う。



福島市指定有形文化財「吉倉八幡神社本殿壁面彫刻」

今後、さらに文化財についての市民への周知を図るとともに積極的な活用を行い、本市の歴史や文化の理解が進むよう努めていく。

「みんなが誇れる県都ふくしま」の 具体的なイメージについて

真政会 萩原 太郎 議員

問 福島市の重点テーマである「みんなが誇れる県都ふくしま」とは、他市にない独自の制度や自慢できる建築物など、色々な考え方があ

答 まずは、放射能対策をスピードアップし、放射能災害に苦しむ市民が安心して生活できる環境を一日も早く取り戻すこと。

具体的イメージを示していくことが市民の希望に繋がるが、「みんなが誇れる県都ふくしま」

とは具体的にどのようなイメージなのか伺う。

そして、生活福祉の向上を図り、子どもから高

年齢者まで全ての市民が幸せに、この福島市で生活できる環境をつくること。

産業の誘致・集積により「メデイカルバレー・福島」をつくること。

本市の基幹産業である農業や観光を振興するほか、大規模なコンベンションの誘致を進め交流人口を拡大することなどにより活力あるまちをつくることである。

また、私たちの子どもたちや孫たちの世代のために、再生可能エネルギーを活用した「環境最

じょーもぴあ宮畑といむむの
連携による学習について

公明党 丹治 誠 議員

問 現代の福島市では南十字星は見えないが、縄文時代の福島市からは歳差運動により南十字星が見えたとのことであり、縄文時代の福島市から見えた星空をプラネタリウムで再現することができる。

答 現在、市内の幼稚園・小学校・中学校の教職員で構成する「じょーもぴあ宮畑教育活用委員会」において、「じょーもぴあ宮畑教育活用の手引き」を作成しているところであり、小

学校・中学校の社会科において、ふるさとの歴史に対する理解を深めるとともに愛着心を育てるために、じょーもぴあ宮畑での縄文時代学習を取り入れる予定となっている。

また、縄文時代の星空を学習することは、理科教育だけでなく、児童・生徒の縄文時代への興味・関心、学習する意欲を高めるためにも効果が

あるものと考えており、こむこむのプラネタリウム活用についても検討していく。



こむこむ館 プラネタリウム

未婚男女の出会いの機会に関する事業について

真政会 田畠 誠司 議員

問 子どもが出生するために、基本的には、男女の出会いが必要であり、未婚の男女に結婚を勧める事業を行い、少子化の改善や男女共同参画社会の実現につなげる必要があると考える。

昨年末には政府による「地域少子化対策強化交付金」の新設も決定しており、未婚の男女の出会

いの機会に関して、本市が現在実施している事業について伺う。

結婚についての意識の啓発と男女の出会

いの場の創出は、少子化対策を進めるうえで、重要な取り組みである。本市としては、地域活動やボランティア活動など、市民による各種交流活動が活発に行われるよう、また、民間で行われているイベントと連携を図るなど、引き続き取り組んでいく。

